

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21 年 1 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403558		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイいわき内郷サンフラワー		
所在地	〒973-8402 福島県いわき市内郷御厩町3丁目34 (電話) 0246-45-3255		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年1月27日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 16.1 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有() 円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 167 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	66 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大河内記念病院、長橋病院、五代儀歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に近い利便性に恵まれた新興住宅地の中にあり、地域密着型サービス提供事業所としての環境に恵まれている。室内は清潔であり、利用者の手作りによるクリスマス用の飾りなどが家庭的な雰囲気を表出しており、利用者もゆったりとした環境の中で落ち着いて生活している。近隣にある同法人運営のデイサービス事業所と緊密に連携し行事に参加したり、事業所独自で定期的に地域の清掃活動を行い、地域住民と挨拶を交わす機会をつくるなど、日頃より地域交流に努めている。利用者の思いや意向の把握については、センター方式と家族からの情報を取り入れながら継続的なアセスメントに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘の重度化や終末期対応については、対応指針を作成し入居時に利用者等の同意を得ており、災害用備蓄についても整備され、改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員全員でかわり管理者が統括しているが、取り組みの事実の記述が簡潔過ぎ、具体性に欠ける点が見受けられる。今後は実施している内容の有無を具体的に記載し、改善に向けての取組むべき課題を明確にすることが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は3ヶ月、5ヶ月と不定期開催となっている。重要事項説明書に記載されているとおり、今後は2ヶ月に1回定期的に開催されたい。また、地域包括支援センター、民生委員、町内会役員などを構成員とする運営推進会議の目的と運営についての重要性を確認し、サービスの質の向上と事業所の効果的運営に反映させて欲しい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問は頻繁にあり、その際には十分利用者の生活や身体的面の状況を伝え理解を得ている。運営推進会議でも家族の意見を表出する場面に作り配慮し改善に向けて取組んでいる。金銭管理については、二重チェック体制で適正に管理され、家族の確認を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、定期的に行っている地域清掃活動は地域住民からも喜ばれ、交流の場としても効果的である。地区の老人会にも行事の案内をしたり、情報伝達の媒体として、職員達で考案した「かわら版」を作成し、事業所の様子をお知らせしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念として、「豊かな暮らしの中で、人と人のつながりを大切に、感情豊かに自分らしい生活を支援する」ことを表示している。		地域密着型サービスとして、グループホームが地域で理解され協力が得られ、利用者も日常生活の中で地域に溶け込んでいけるような内容を理念に具現化すれば更に良い。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に目に入りやすい形で、玄関や共有空間の壁面に理念を掲示しており、職員全員がその内容を理解し実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	週一回事業所自ら清掃活動を行い、その際に挨拶を交わしたり会話を通して近隣の住民との交流を行っている。また、事業所の情報を老人会のメンバーの一人ひとりにお知らせしたり、デイサービスとの合同でお祭りを企画して大勢の参加を得ている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は全員が理解しており、自己評価については、作成の過程で日常のサービスの見直しや反省などの気づきもあった。		自己評価の取り組みの事実を具体的に記載することによって改善点が一層明確になる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の構成メンバーは大部分が家族であり、会議録からは家族の忌憚りの無い意見が出されている様子が伝わってくる。しかし、行政への働きかけが十分でなく、開催回数も3~5ヶ月に1回と不定期である。	○	地域密着型のグループホームにおいては、地域との連携が最重要であり、行政組織又は地域包括支援センター、町内会役員や民生委員、家族代表などを構成員として委嘱し、会議を開催することが望ましい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の家族の大部分は頻りに訪問しているので、利用者の日常生活状況を詳しく説明している。また、季刊紙を編集し家族へ送っている。金銭出納帳の管理も複数チェックで行い、家族の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においては家族からの活発な意見や要望が出されている。入居時の契約書にも公的機関の苦情処理窓口の存在を説明し、意見箱の設置や事業所独自の管理者による苦情相談も受けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動により管理者が短期間で交代した経緯があるが、地域の人材を管理職に登用するなどの努力で、離職や異動を極力抑える努力をしている。隣接するデイサービスへ異動になった職員が事業所を訪れて、利用者とは談笑している様子はほほえましいものがあった。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員に対する研修については、1週間から10日間ほどの「初期研修プログラム」があり、OJT(働きながらトレーニングする)をメインに行っている。また、法人内研修については、ステップアップ、スキルアップそれぞれに適時受講させ、研修結果を伝達することで情報の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に参加し、横の繋がりを持つ努力をしており、他の事業所との相互訪問なども行うこととしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問時には季節的に花壇や菜園での作業は終わっていたが、利用者の生活歴や残存能力に応じた趣味、生活者としての機能を上手く引き出している様子が伝わってくる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式によるシートを活用し、生活歴の把握や、焦点情報による利用者の暮らし方等を検討し、家族からの情報を取り入れながら思いや意向の把握に努めている。また、センター方式を継続的に活用し、アセスメントを行うことを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	思いや意向を把握し、利用者本人が好む暮らし方を家族等を交えて話し合いながら、ケアプランに落とし込んでおり、個別具体的な計画となっている。		サービス内容中、緊急性の高い医療的ニーズなどの優先度を高くすることが必要である。また、頻度については、サービス内容に即した頻度を記載することが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス検討会議をもとに定期的または随時の見直しを行っている。しかし、介護計画に基づいて提供されている具体的な介護記録が明確に記述されていないため、見直しの根拠となるサービス内容が客観的に把握できない面がある。	○	現状に即した介護計画の見直しを行うためには、介護計画に基づく具体的な介護記録が基本となる。介護記録の中から見直しが必要となる支援内容を抽出し、ケース会議で具体的に検討していくことにより客観的で精度の高い計画となる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に近隣の協力医療機関がかかりつけ医であるため医療機関との連携は十分図られており、職員による付き添いや家族の支援により適切な医療受診が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りに関する対応指針を作成し、入居時に利用者等の同意を得ている。職員間で方針の共有を図るため研修等を行っているところである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を遵守し、必要な範囲内で使用する場合は個人情報使用同意書を取り交わすなど個人情報保護に十分留意している。また、日常生活の中でも利用者のプライドを尊重した対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ職員主導にならないよう利用者の身体状況や生活ペースにあわせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と話し合いながら決めることが多い。配膳や後片付けもそれぞれ役割を分担しながら行っている。職員は利用者と一緒に食事をとらず勤務体制上食事介助のみである。		職員も利用者と共に食事をすることは、味見をしながら楽しみを共有できる。勤務体制を考慮し、一部の職員でも利用者と一緒に食事を楽しめるようにしてほしいと思う。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。時間帯も自由に利用者の希望に沿って、同性、異性による入浴介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	俳句の得意な利用者や盛り付け配膳、洗濯もののたたみ方が好きな方など、それぞれの役割や楽しみごとを把握し場作りを行っている。そのことが日常生活の中での張りになるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や事業所近くにある川辺の公園散歩など利用者の要望により随時行っている。また近隣の医療機関への受診は徒歩が多く、外出も兼ねており気晴らしになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	屋間の施錠はしていない。利用者の行動を把握し、さりげない見守りにより支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者のもとに消防署立合いにより、定期的に避難訓練を実施している。非常持ち出し袋を用意し、備蓄も整備されている。		非常階段の両側に手すりを設置すると避難時はより安全であると思われる。備蓄については、高齢者が食べやすい形状の食品類も検討してほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれのバイタルチェックや食事摂取量、水分量の把握をし、利用者に合わせた食事形態を考えて提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が一日の大部分を過ごす居間は、職員が目が十分に行き届くように、椅子やテーブルが配置されていて、明るく清潔に保たれている。利用者はそれぞれの好みの場所において落ち着いた雰囲気です話をしたり、歌をうたったりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの生活履歴が窺われる居室になっている。事業所側では積極的に家具の持込みを勧めているので、時間の経過に伴って居心地良く変化していく居室もある。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ツクイいわき内郷サンフラワー

記入担当者名 渡辺 美羽

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。